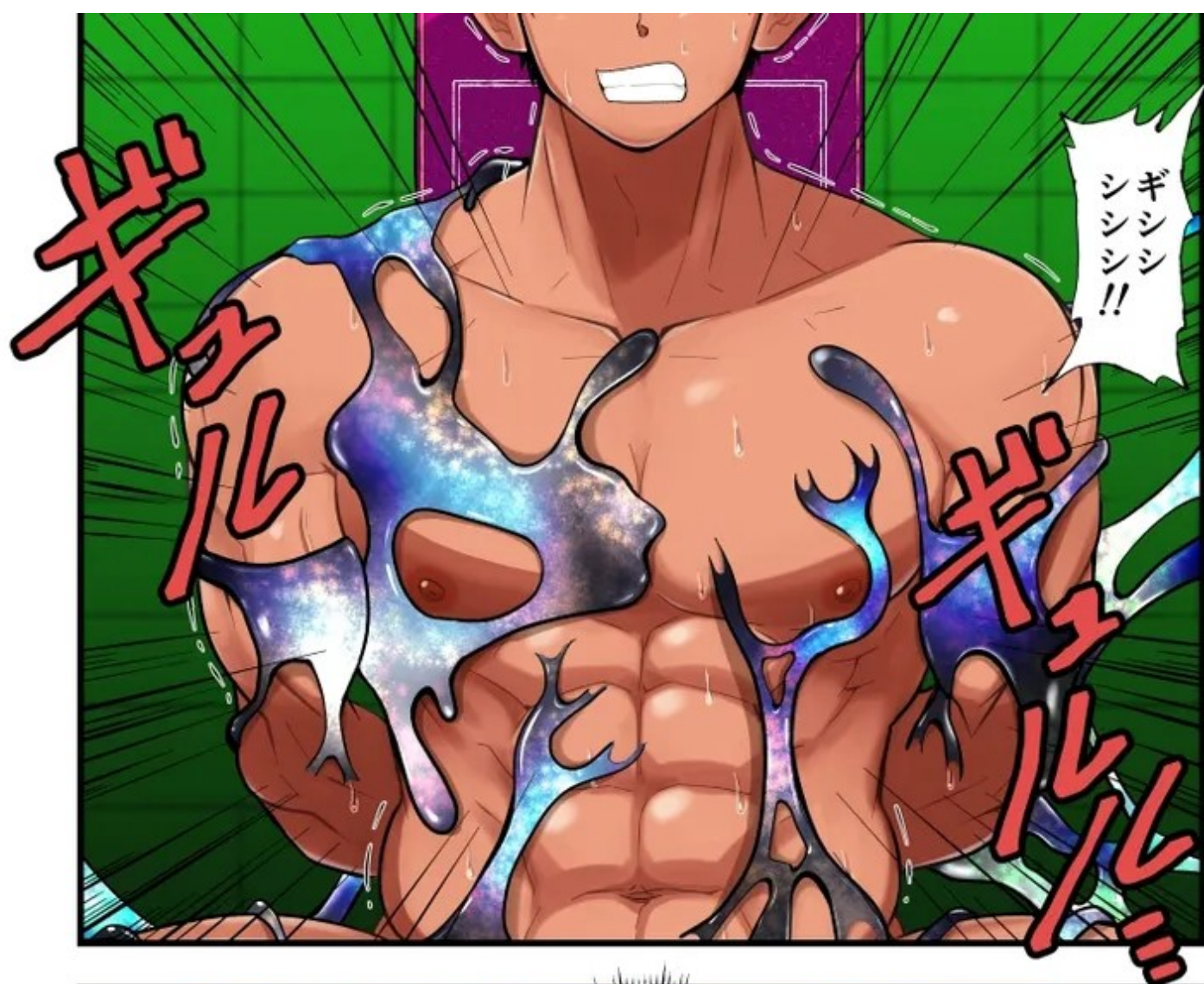










ふざけるなっ!!

そうさ!
お前は今から
俺になるんだ



ギシシ
勘がイイな



長らく放浪して
ついに
見つけたんだ
お前を

くっ!!

俺の肉体に
なるべき
最高の器をな



ネバネバ
野郎が!!

貴様なんか
俺の体は
渡さねえ...



化け物なんか
乗っ取られて
たまるか!!

無駄さ
抵抗したくても
全然力が
入らないだろ?

そこに
座らされて
限りお前は
出せない
力が



言っただろう
もう手遅れだって!!

ううっ!!

ああ...
俺にもついに
肉体が...



しかも
こんな計り知れない
力を持った肉体を
得られるなんて
素晴らしい喜びだ



この力があれば
俺は存分に
この世界を
楽しめる

わ...
渡して...
たまるか...

お前はここで
絶対に倒す...



俺の使命は……
貴様のような
化け物から

人々を守る
ことだからな……

何て勿体ない！
今までそんな風にか
力を使っていたのか
お前の肉体と力は
もった
楽しいことに
使うべきだ
そうだろう？

例えばそうだ

お前が今まで
守ってきた
人間どもを
始末していく

なんていうのも
楽しそうだ

自分たちを
守った男に
殺されると
分かった時の
人間たちの顔を
見るのは
楽しいだろうな

ふざけるなっ！！

そんなこと
絶対させるか！！

ギシ
ギシ



ドドロ

!!

諦めろ！
どんなに吠えても
薄れていって
いるだろ？
肉体の感覚が

オオオオオ

ぐううっ...

こうしている間にも
俺の細胞が
お前の肉体の
隅々まで
溶け込んでいって
いるんだ



どんな気分だ？
だんだん死んで
いくのは

フキ

脳まで細胞が
行き届けば
お前は死ぬのさ

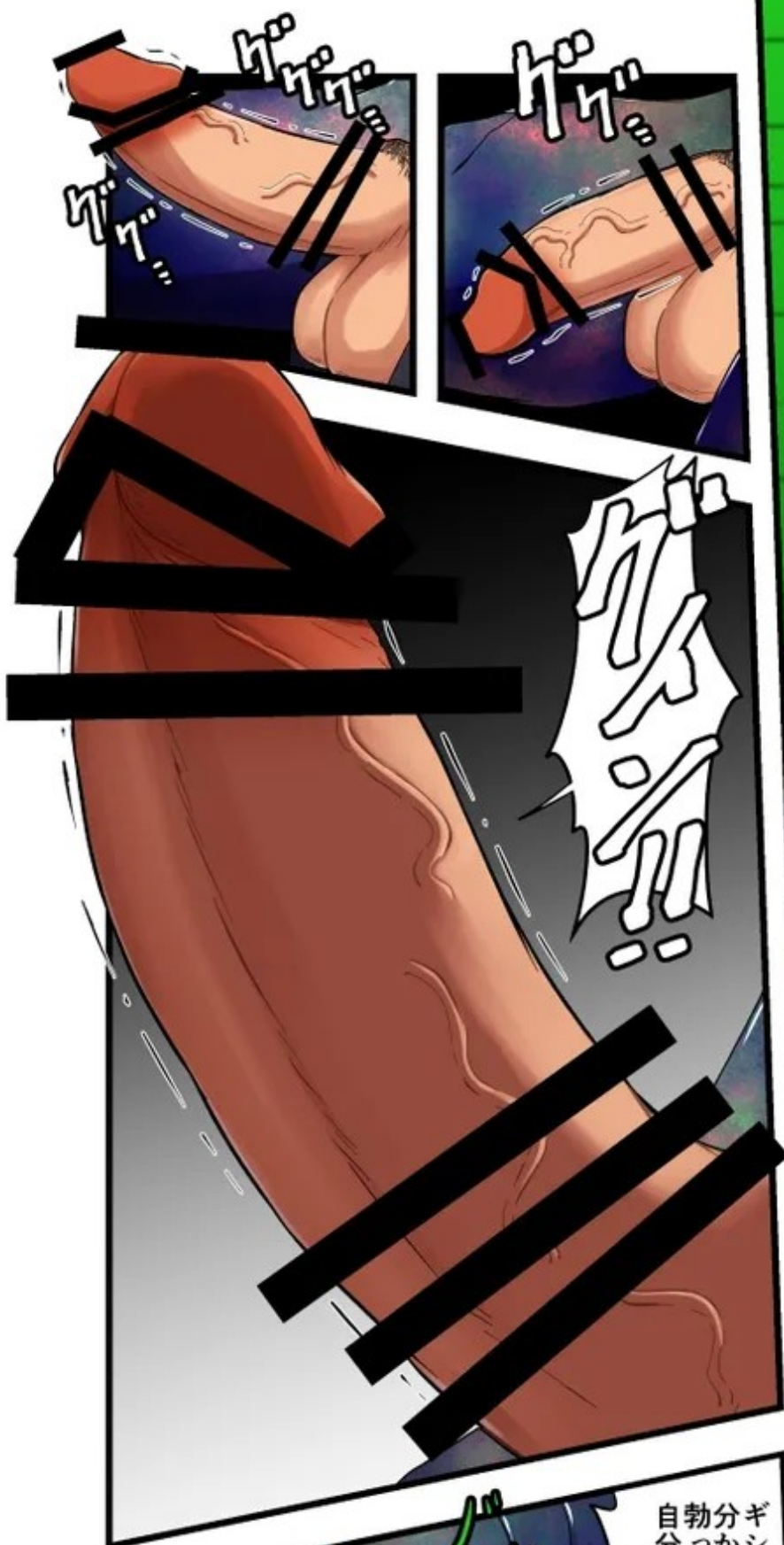
恐ろしいか？

くちゅ

くちゅ

くそったれ...

フキ



ギシッ!!
分かったか?
勃っただろ?
自分の意思に反して





楽しみ過ぎるぜ!!
ギシシ!!

これから
使いたい放題だ



実に美しく立派な
精器じゃないか
んん?

ビギッ

これも
俺のモノになる



この
野郎が

さあ
おしゃべりは
終わりにしようぜ

そろそろ楽に
なりたいだろ?



くそお...



とどめを
さしてやる!!

あ...
うう...

あああ……

ああ……

ダッダッダッ……

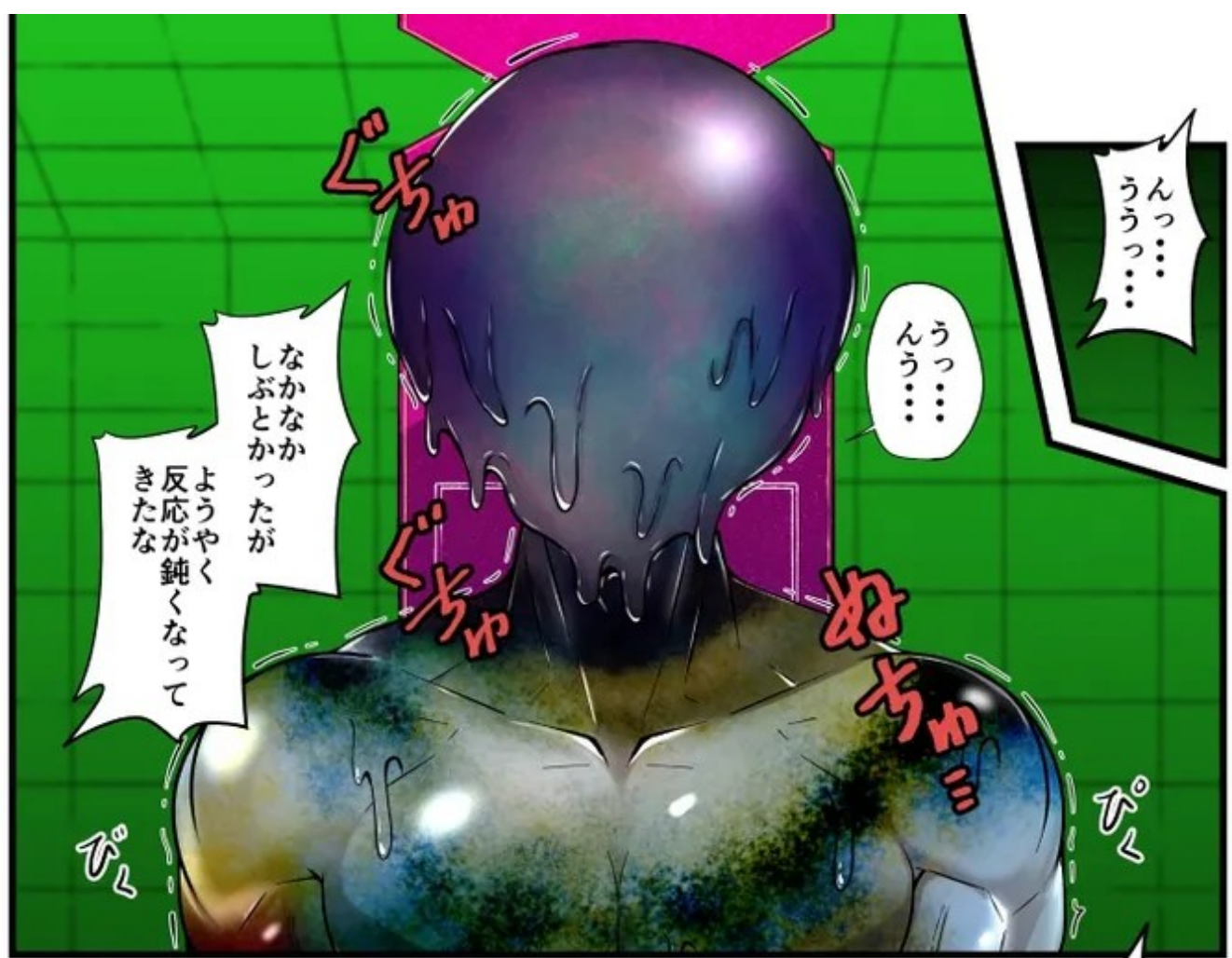
ぐっ……

ぐああ……

……!!

～次回へ続く～







ここで
死ぬわけには…



死ねない…
こんなのやつに
乗っ取られて
たまるか…

死んで
たまるか…



おおっと!!



俺は…
死ねないっ!!

ぶる



止止お
まらま
ないお
いっ!!



どんだん
溢れてくるじや
ないか!!

溢れる……？
こいつ……
何言……

何だ何だ
どうした
勝手に
噴き出したぞ!!



なるほどな
分かったぞ！
最後死ぬ前に
気持ち良く
なりたかった訳か

それとも窮地^{ピンチ}に
興奮してイッちゃっ
ただの変態だった
だけか？

ただ今のお前が
射精した
ところだ

もう何も
感じてない
だろうけどな

残念だったな
変態くん
けど見事な
出しっぷりだったぜ
ギシシ

射精……？
嘘だろ……？
俺イッたのか？

……
分かんねえ……

何も…
感じねえ…

ズズズ

んじゃあ最後に
この太いやつを
頂いて…と

ギュー

ギュー
ギュー

ギュー
ギュー

ギシッ
何か言い残すことは
あるかい？
変態くん!!

ドン

ドン

ドン

ちくしょう…
意識が…

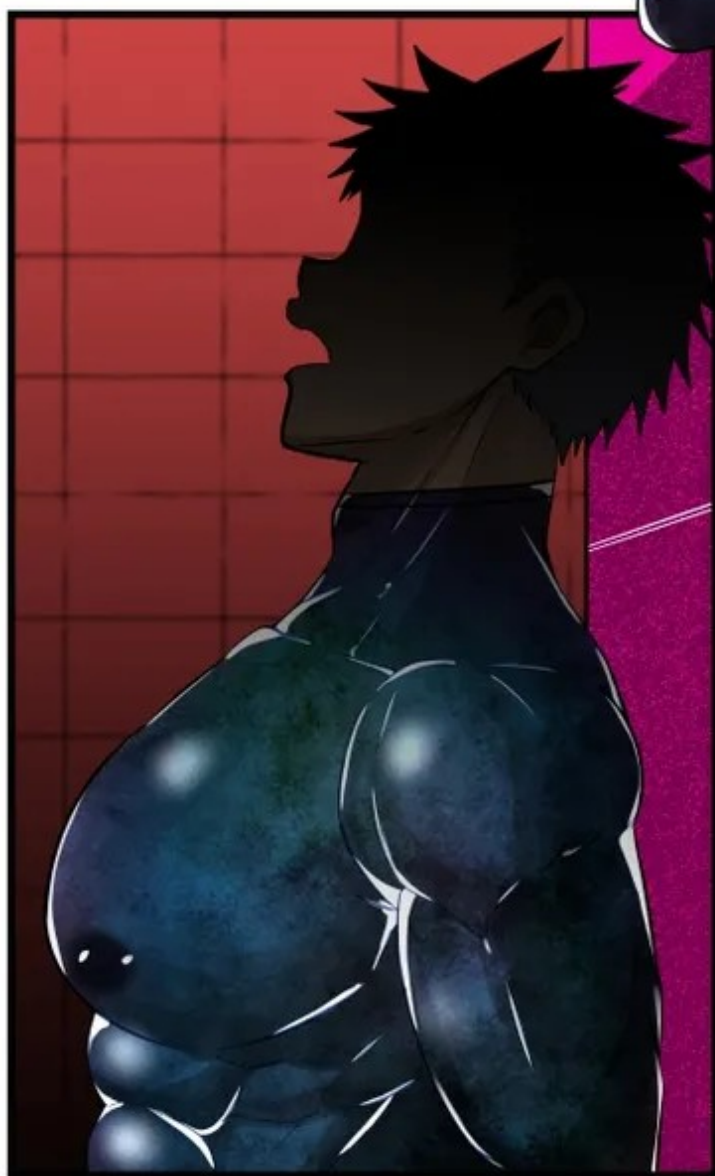
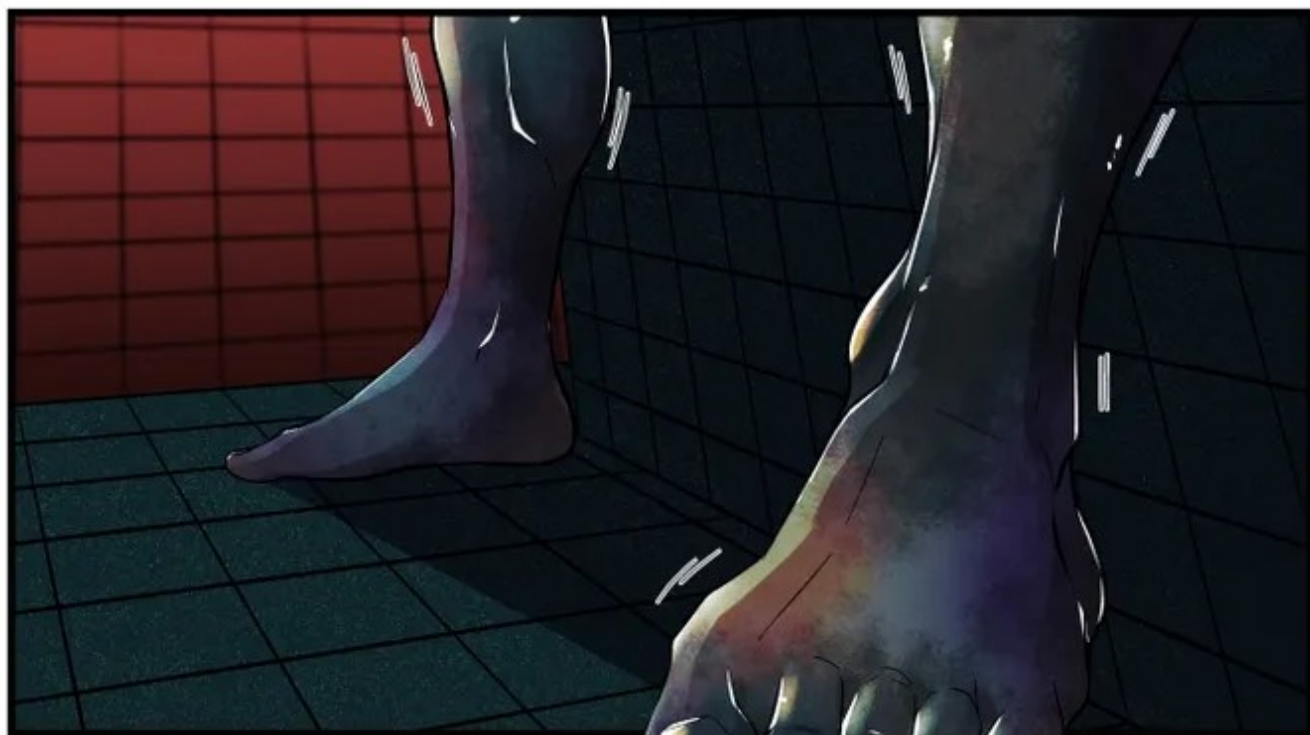
俺は…
絶対…
諦めな…

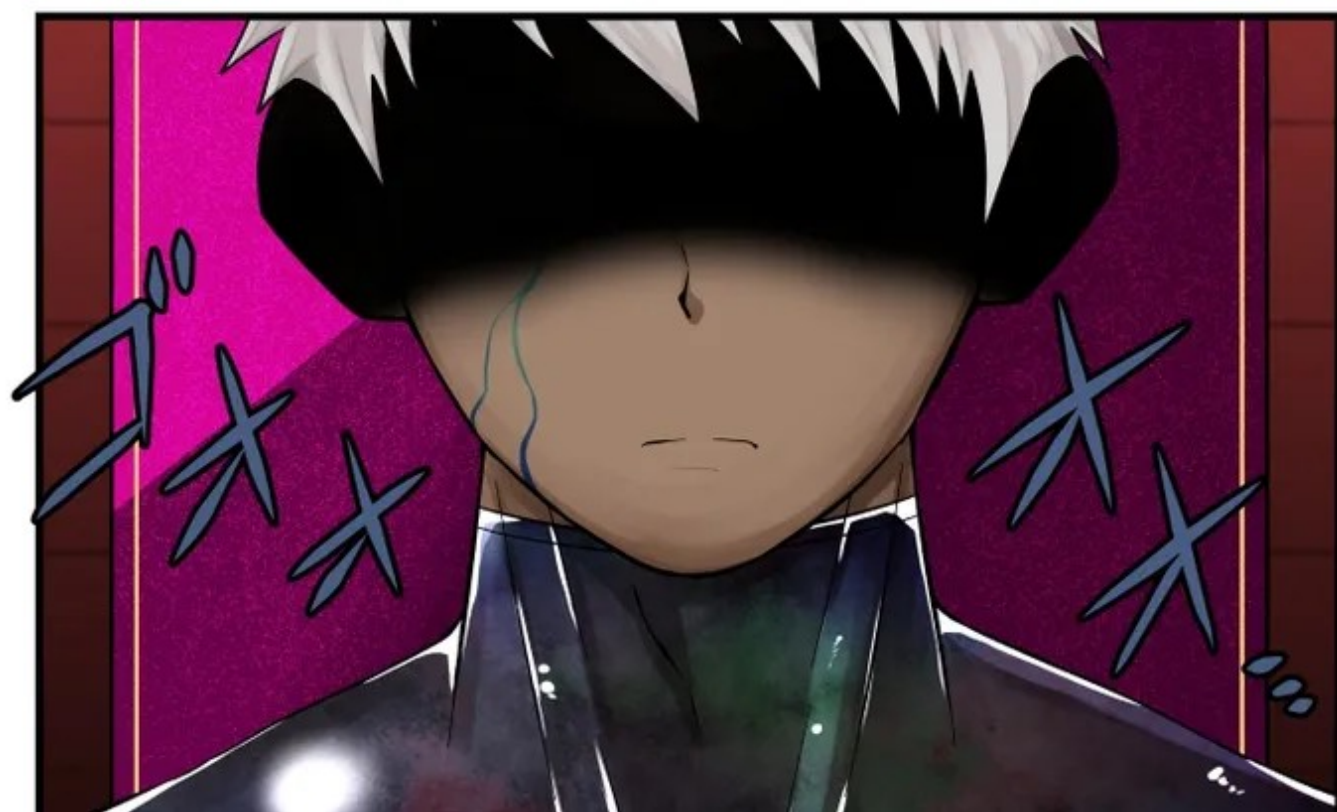
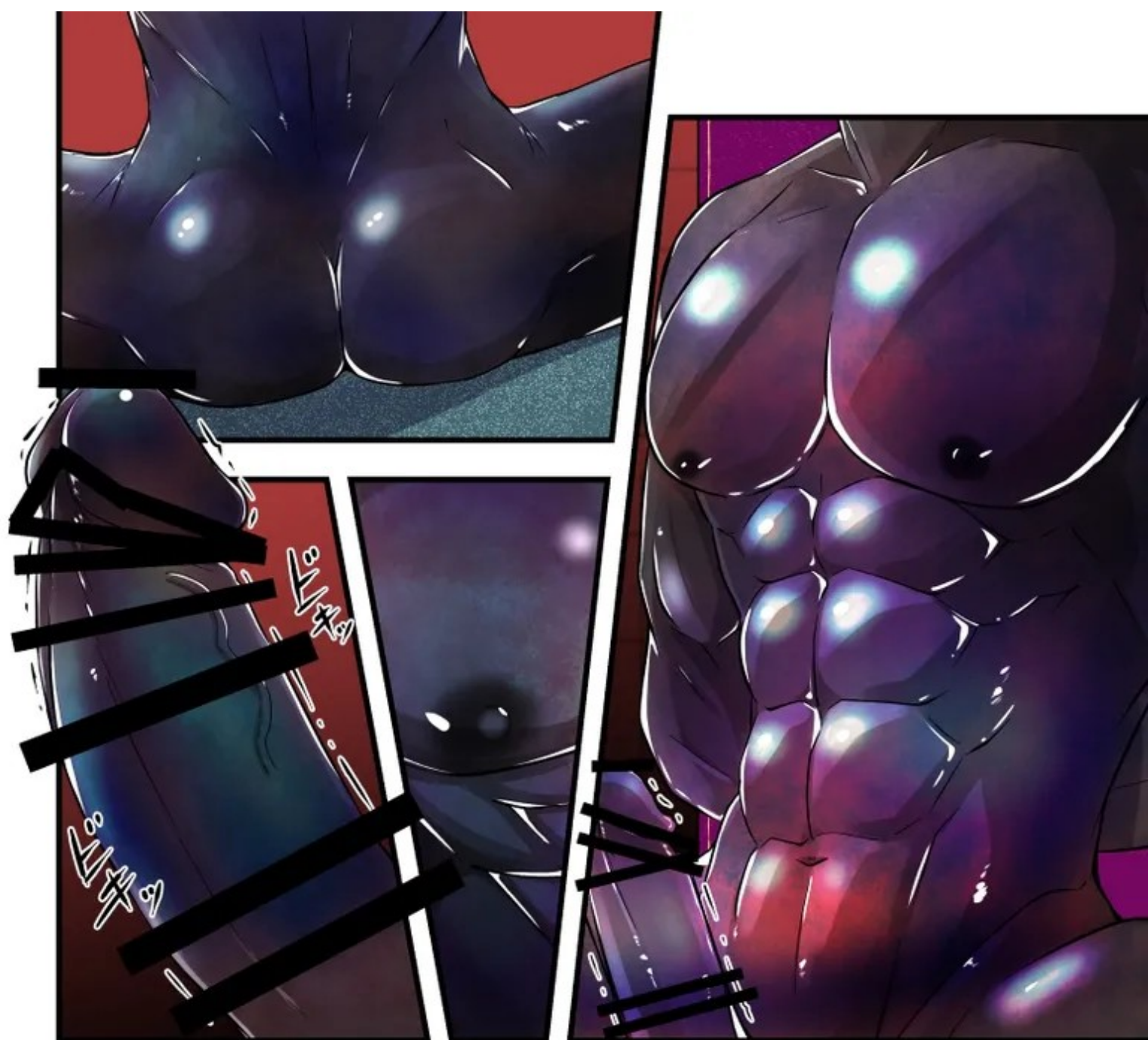
何も無しか

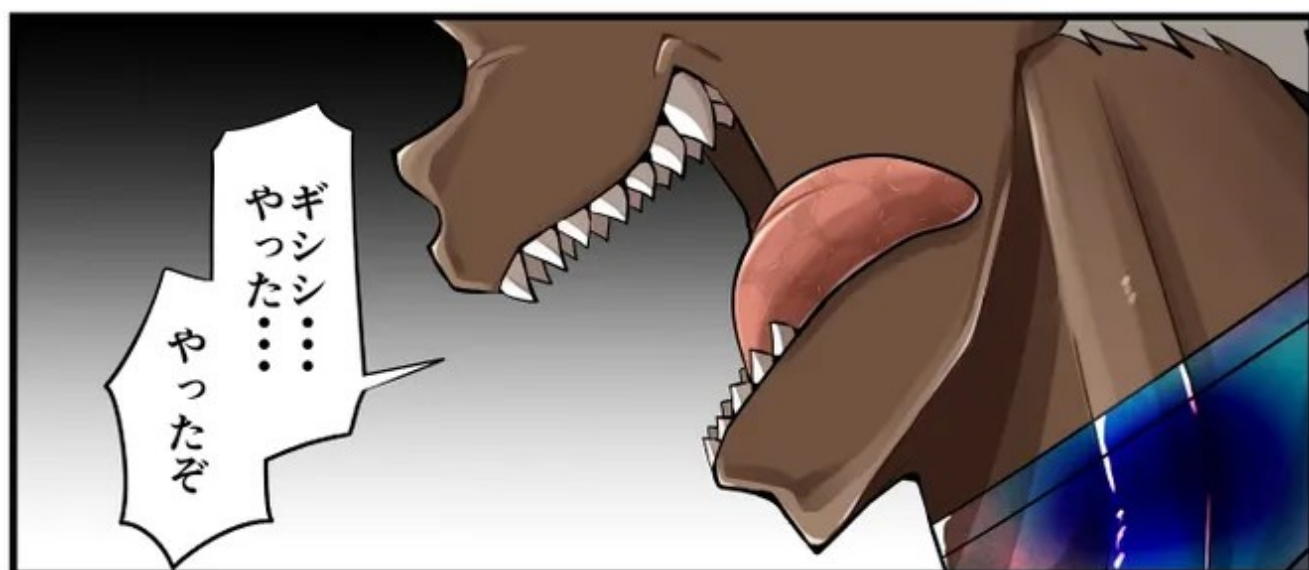
じゃあなっ!!













これが俺の肉体!!
全身に力が
漲ってくる!!

グッ

グッ



こんなに
凄いなんで
想像以上だ!!

グッ



おおっ!!



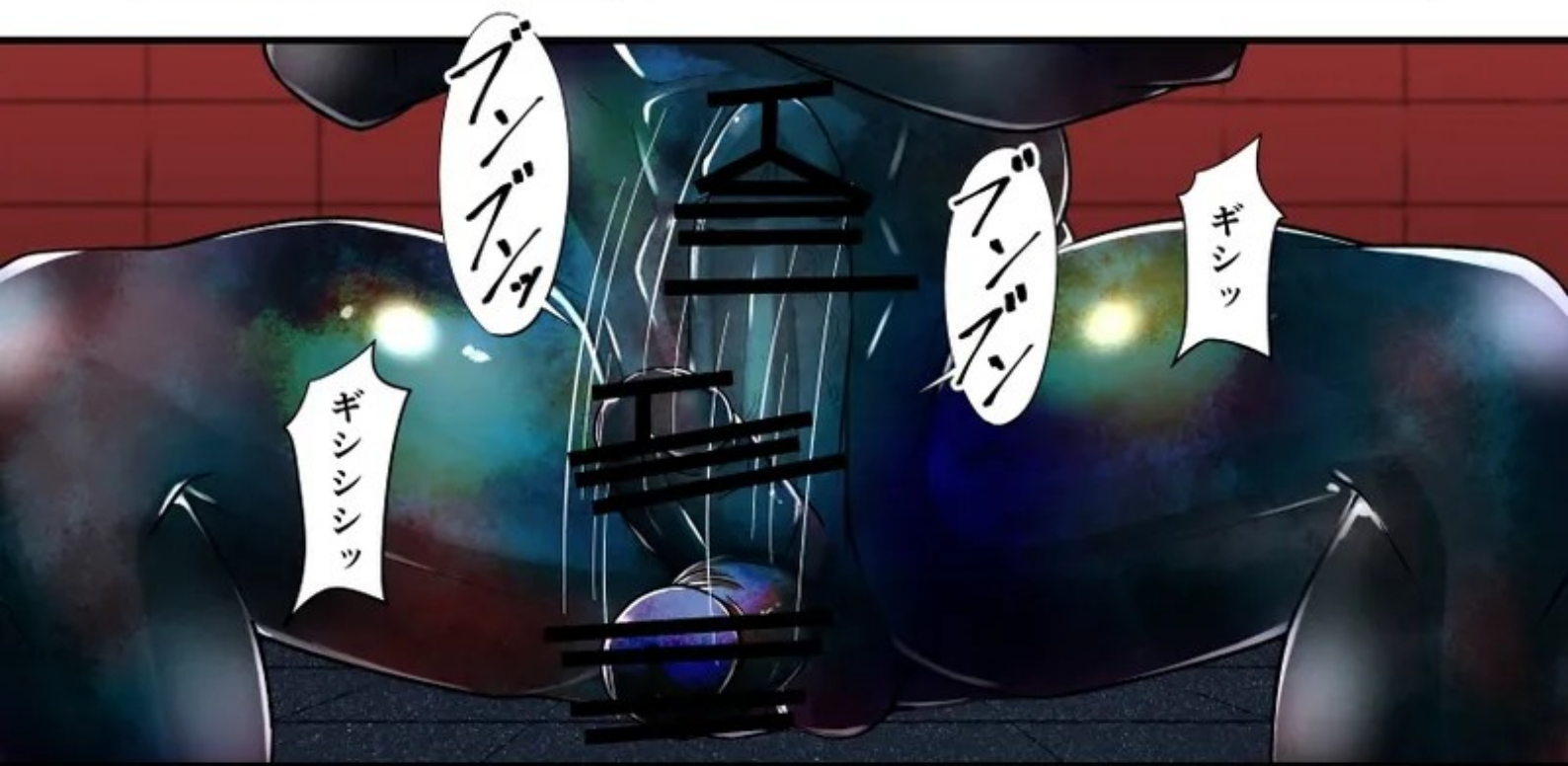
とうとう
手に入れたぞ

この素晴らしい
肉体を!!

ギョ

グッ

グッ



なるほどな
変態くん

ネクロ・ロクロって
名前だったか

悪くないな

ネクロ
お前のこの肉体
最高の居心地だぜ

～終わり～